

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

西部地区授業づくり研究会

1 期 日 平成30年11月21日(水)

2 場 所 伯耆町立八郷小学校

3 研修内容

(1) 研修テーマ

個に応じた確かな学力の定着と人間関係力の育成

～『教えて考えさせる授業』を通して確かな学力の定着を図る～

本研究会では、各教科において『教えて考えさせる授業』のスタイルを活用し工夫することにより、児童は見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができ、確かな学力の定着が図れると考える。また、協同的な学びについて研究することにより、人間関係力が育成されると考え本テーマを設定した。

(2) 助言者

東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース

教授 市川 伸一 先生

本研究会では、学力の定着を図るには、習得すべき内容を明確にし、それをもとにして理解をより深めていく『教えて考えさせる授業』が学力の定着に有効な学習スタイルであるととらえ、提唱者である市川伸一先生に助言頂いて本年度で4年目となる。理論面、実践面両面に於いて丁寧に指導して頂ける市川先生の助言は欠かせないと考えた。

(3) 『教えて考えさせる授業』の授業公開

※別紙指導案参照【3年(体育)】

(4) 授業研究会

〈三面騒議法によるグループ協議〉

1 授業の始まり

- ・リズムダンス ペアでの動きも入っていてよかった。
- ・支える活動では、動いたり止まったり、リズムよくできていた。
- ・マットの間隔が狭く、技によっては危険な場面があった。

2 教師からの説明(教える)

- ・映像、写真、様々な工夫がある。手本があることで目標が明確になる。
- ・どこがポイントなのかが分かりやすかった。オノマトペの使用など。
- ・めあてを全体で確認して声に出していた。意識できてよかった。
- ・言葉の工夫「スピードくるん」児童がつぶやきながら意識していた。
- ・技術→具体的な動きの指導が少なかった。
- ・映像より実演がいい。映像ならもう少し大きく、一時停止もできるように。
- ・たびたび区切って集合させるより、はじめに教えたいことを伝えてしまうのがよい。

3 理解確認

- ・人の動きから学んでアドバイスできていた。
- ・友達の動きをチェックするもの(写真、チェックリスト)があるとさらによかった。
- ・理解確認の活動の終わりを示してあるとよかった。
- ・励まし合い、動きを高めるポイントの言葉が児童から出ていた。
- ・自分の動きは見えないから難しい。メタ認知を促す指導の工夫。(タブレットによる録画など)
- ・児童は互いに何をアドバイスすればよかったか分かっていなかったのでは?
→指導の掲示物を使って、アドバイスをし合えるように教員が声かけ。

- ホワイトボードのポイントを集合時に確認するとよかった。
- ペアで必ずポイントに沿ったアドバイスを、と決めておくとい。
- ・ペアでの活動をよりしっかり！アドバイスを時間を取る。
手本になる児童は皆連続技ゾーンに行って、アドバイスできる子がなかなかいなくなる。
→達成度に応じてペアを作り変えてもよいかも。

4 理解深化

- ・組み合わせ技は次回で扱うべきでは。今回は開脚前転・開脚後転を中心にした内容に。
- ・めあてに沿った深化課題になっていなかったのでは。

5 自己評価

- ・アドバイスされた子、した子、どちらも嬉しそうだった。
- ・めあてやポイントをおさえた発表ができていた。
- ・自己評価が高い。友達の良いところをすぐ発表できたのは、活動内容がよいから。友達をよく見ているから。

6 その他（全体を通して）

- ・音楽で活動が始まったり、集合したりが自然とできる。不要な指示もなくてよかった。
- ・子どもたちが互いに励まし合う雰囲気、声かけ。
- ・体育館全体を使った場の設定。
→運動量の確保ができる。個人差に応じて学習内容を選択できる場がある。
- ・全体的に児童の理解度が高かった。規律がしっかりしていた。
- ・教員が見れていない児童が多いのでは → T1は全体を見るなど分担を。
- ・開脚前転より開脚後転のほうがしやすい？先にするとよい？

<アドバイザーからの助言>

- ・「教える」の段階で、「ポイント」を「ピン」などで言語化したところはよかった。
- ・「ポイント」の押さえが甘かった。そのため、そのポイントを意識して授業に取り組めていない児童があった。ポイントに示された言葉を使って児童がアドバイスをできるようになるといい。
- ・授業で示した「ポイント」を意識した「振り返り」になるような授業展開を考えるべきである。
- ・運動の苦手な子に対する場の設定がありよかった。
※「教えて考えさせる授業」の音楽の授業を例として、実技教科の授業づくりのポイントについて、動画を用いて助言して頂いた。

4 研修の成果

- ・全学級が授業を公開し、個別に市川先生に助言して頂いたことにより、個々の課題が明確になり、今後の実践に生かすことができる研究会となった。
- ・「教えて考えさせる授業」の体育の授業展開について、実際の授業を通して助言頂いたことにより、参加者が自己の授業について振り返ることができ、今後の授業改善に直接つながる研究会となった。
- ・「教えて考えさせる授業」の実践校が三面騒議法を用いて分科会(授業事後検討会)を開催したことにより、活発な意見交換ができた。
- ・市川先生より実技教科の授業づくりのポイントについて先進校の動画をもとに説明して頂き、体育以外の実技教科についても示唆を頂くことができた。